No. 16

Barbie®

バービー・コレクターズ・クラブ

Collectors Club JAPAN



第16号

1991 SPRING ISSUE

もくじ

バービー・コレクターズ・クラブ・JAPAN
本部：〒154東京都世田谷区三宿
1－28－4 渡辺純子方
☎／FAX 03－3422－3414
Sumiko Watanabe
1-28-4 Mishuku Setagaya-ku
TOKYO 154 JAPAN
編集室：〒204東京都清瀬市上清戸
2－6－20 中村双葉方
☎ 0424－93－6563
2-6-20 Kamikiyoto Kiyose-shi
TOKYO 204 JAPAN
■4月下旬頃、元の住所…東久留米市浅間町1－11－19へ移転予定

印刷…ライトハウス・オオタニ印刷　海外用概略英訳作業…小林幸子

本部からお知らせ

いよいよ4月から、BCCJの第5期がスタートします。

当クラブは、バービー・ドールを中心とするモダン・ファッション・ドールの同好会であり、コレクションの楽しみをより多くの人々と分かち合い、人形を通しての国際的な文化交流を目指し、活動を続けています。

BCCJの最も重要な活動のひとつは会報の発行です。私達のコレクションの対象となる人形達の正しい情報を世界中から収集し、会報を通して国内・海外のメンバーに提供し、外国人メンバーには特に日本の情報に力を入れた英文の要約書を付けて送っております。また、欧米の各クラブともそれぞれの会報やリポートを交換するなど情報交換と交流を図っています。現在、BCCJには、フランスの二つのクラブとドイツのクラブから定期的に会報が送られてきていますが、ミーティングに参加される会員以外には、直接お見せする機会がありませんでした。そこで第5期からはご希望の会員に、それらのコピーをお送りするか、オリジナルを貸し出そうと考えています。ご希望の方は、本部までご連絡下さい。

さてBCCJ第5期は、これまでの会報（年4回）に加えて、会報ではカバー仕切れなかったホットなニュースをタイムリーにお届けする「バービー・タイムズ」（年4回　会報の間をぬって）の発行を計画しています。またミーティングもミーティング・コミッティーにより、さらに内容を充実させ新しいプランを盛込み、BCCJを大きく前進させようと様々な企画を考えています。　会員の皆さん、どうぞ第5期も私達と共に、夢をはばたかせようではありませんか？

※第5期の年会費は、印刷代の値上がりや「バービー・タイムズ」の発行経費を見込み、3000円から3500円に値上げさせていただきました。但し、新規会員の入会金は廃止し、また「バービー・タイムズ」は国内会員にのみ配布を予定し、海外会員の年会費は据え置きとしました。どうぞ、事情をご理解のうえ、継続手続きをよろしくお願いいたします。

●第5期（1991年4月から1992年3月）への継続手続きのご案内

年会費：3500円（国内）　$27（U. S. A）　JPY. 3700（EUROPE）

上記の金額を4月10日までに下記のご都合の良い方法でご納金下さい。

★銀行振込み：第一勧業銀行・渋谷支店　（普）1968366　バービー・コレクターズ・クラブ・ジャパン

★現金書留：〒154 東京都世田谷区三宿1-28-4 渡辺事務所内　バービー・コレクターズ・クラブ・ジャパン

Tel.03.3422.3414　★郵便振替：東京3－409596　バービー・コレクターズ・クラブ・ジャパン

バービー★マスカレード'90★リポート　構成／平垣　真穂　Maho Hiragaki

＊このリポートは音声多重放送でお送りいたします。

〔真面目な一般参加者リポート編〕

☆1990年11月23日(祝)２時30分、仮装パーティーに参加する為、期待と不安に胸を膨らませて東中野の駅を降り立ち、商店街の一本道を歩いていった私の眼前に突然ブルーグレーの外壁の真新しいマンションが飛び込んできた。周囲の家並とは隔絶した雰囲気を持った建物の壁には、チケットにも印刷されているゼブラ水着のバービーのイラストの案内ポスターが貼ってある。入口横のクロークで着替え、落ちついたアーリー・アメリカン調の広い会場に入ると、チケットと引き換えにSNUG FUZZ 姿の大木さんから記念のロゴ入りＴシャツとオリジナル衣装をまとったバービーの写真入り缶バッジを頂いた。クロークが一つしかないので着替えに手間取ったのか、30分遅れで開場。ARMYの衣装に身をつつんだ実行委員長の柳本さんが開会宣言をした後、SPARKLING PINK姿のお馴染みの平垣さんの司会でパーティーは始まった。周りを見渡してみると、今回はいつものミーティングより年齢の幅が広く、男性の参加者が多いことに気付いた。また相原さんや金川さんのように初めてお目にかかる方も多かった。

〔不真面目な実行委員のホンネ＆裏話編〕

★１時30分、荷物が多いのでゆっくり歩いていたら30分遅刻で会場に到着。買い出しに行く料理係の渡辺美菜＆成家李弥子両嬢に出くわす。台所では両米・村木両ファミリーが料理の盛りつけに忙しく立ち働いている。バツが悪いので、某柳本氏が建物の外壁の色を「真っ青だ」と言ったことを持ち出し、道に迷ったと言い訳をする。会場の入口にはくだんのＹ氏が１枚１枚プリント・ゴッコでロゴを印刷した記念Ｔシャツが並んでいた。半年間の活動の中でも感じたことだが、彼は案外マメなのかも知れないなどとノンビリ考えていたら、事前に受付係を決め忘れたツケが回ってきて、一番ヒマそうな私が受付に座らされてしまった!!持参したペンは良く書けないし、手順は間違えるし、東海さんには半券を返し忘れるしと困り果てていたら優しい大木さんが代わってくれた。でも気が付いたら一息つく間もなく、３時半。慌ててＹ氏にマイクを回したら、あっという間にマイクが返ってきてしまった。困った、困った・・・.進行の打ち合せを忘れてしまった!!







☆初めに行なわれたのは仮装コンテスト・ジュニア部門。小学生以下の子供達がおめかしして登場、撮影の後、アミダくじで賞品あてをするというゲームがあった。続いては待ちに待ったシニア部門。でも一人ずつ名前を呼ばれ参加の意思を確かめられた後、写真を撮ってすぐ、立食パーティーになってしまったので少し物足りない気分がした。一人一人趣向を凝らした衣装なので、司会者がどのような工夫をしたのか、いろいろ聞いてくれたら良かったのにと思った。30分位してから、皆の投票によって決定した栄えある第１回の優勝者はKEN IN MEXICO の高塚さん、準優勝はMODERN ARTの成家さん、第３位は現代風な２ウェイ・ロングドレスの浦田さん。その他にもFRIDAY NITE DATE の高下早苗さん、IRISH BARBIEの和田さん、BALLERINA の渡辺美菜さん、そして何故かＧＩジョーの仮装の石月さんと小原正泰さん等目移りしたが、私は立食パーティーの間も忙しく働いていた柳本さんと平垣さんに感謝の意味を込めて投票した。

★何と言っても問題だったのは、進行役に出てきたアミダ爺！！明石家さんまの「アミダばばあの唄」を歌いまくるあのノリは会場の雰囲気とは合わず、ちょっぴりシャイだった宮崎家のお姉ちゃんを含め、参加した子供達にアキレられていた。

そして悪夢のシニア部門。受付でコンテスト参加の確認と、番号札の配布を忘れた為に、いちいち一人ずつマイクで呼び出すハメになり、時間不足で個人インタビューが出来なくなってしまった。チケットの半券を見て呼び出したが、半券を無くした為、小原美之さんなどはSLEEPER SET 姿のまま待ちぼうけを食わされてしまうなど、不手際の連続だった。本当にごめんなさい！！それでも開票してみると優しい人達の同情票が、私にも！！ありがとう！！

【仮装入賞者紹介＆コメント(敬称略)】

●高塚忠夫：KEN IN MEXICO で第１回仮装大賞を授賞した瞬間もビデオカメラを回していた為、賞品を受け取りに来られなかったと言う働き者の高塚さん。「バービーを差し置いてケンの授賞なんて」と謙遜されていますが、会報13号のアンケートで答えた通りの服を作った初志貫徹の人でもあります。

●成家李弥子：「作る点で苦労したのは衿で、何度かやり直しました。本当はもう少し衿幅を太くしたかったのですが、技術不足で断念。時間に追われないと出来ないタイプなので、今回のドレス作りも、御多分にもれず、パーティー前日の夜までスカートの裾あげ等を必死に行ない、やっと完成させました!!」とおっしゃる李弥子さんはMODERN ARTの仮装で準優勝。新婚の旦那さまの鉄夫氏と御一緒の参加でした。

☆2時間もするとお互いにすっかり打ち解けておしゃべりに花が咲くようになった。食卓が一通り片づいたところで、人形・小物コンペティションのテーブルを見て廻り、お気に入りの人形に投票。圧巻だったのは、優勝者の柳本さんの自動車。後部には旅行カバン等の荷物が積み込まれ、運転席にはバービーの支度を待っているケンがハンドルを握っていると言う手の込んだ作り。準優勝者で、缶バッジ用の人形の衣裳を作ってくれた九州の藤田章人さんのオリジナルドレスの数々にも目を奪われた。衣裳や小物、髪型までをも自分で改造した力作が多く、私もやり方を教えて貰って作ってみようかなと、創作意欲がわいてきた。

コンペ参加の人形(一部)→



☆残り時間は楽しい企画が目白押し。先ず最初は、RED FLARE 姿の小林幸子さんが司会・進行を担当するクイズ大会。「バービーが最初に身に着けた服は？」と言うような初心者向けの問題から、「バービーの両親の名前は？」と言うような上級者向けの問題まで幅広い知識が必要だった。私も何問か解る問題があったのだが、皆の前で手を挙げるにはなかなか勇気が必要だった。秘かに楽しみにしていたセールス・タイムはアップにまとめた#4の人形から、洋服・小物、ブックレットに至るまで、今までのどのミーティングよりも品ぞろえが豊富で、格安のお値段。欲しい物がある人は、売り主との個人交渉で買うと言う形式だったので、商品を抱えて右往左往してしまった。そしてラストはビンゴ大会。小林さんのご主人の進行で、次々と残った商品が参加者の手に渡されていった。

☆閉会予定時間をオーバーする事1時間、渡辺会長の閉会の辞によって長かったパーティーも終わりを告げた。荷物が多くなり過ぎて鞄に入らなくなっている事に気付き、夢中で過ごした4時間の内にこんなに素敵な思い出が集まったのかと思わず嬉しくなってしまった。会場の熱気に圧倒されっぱなしだった私は、最後の最後までその余韻に浸りつつ、知り合いになった皆さんと一緒に夕闇の中を東中野の駅へと向かった。

★あっという間に2時間たってしまった!!後1時間ではプログラムをこなしきれない為、係のお姉さんと時間延長の交渉に入る。駆引き上手を自認する私だが、料金を1円もまけて貰えずがっかり・・・。落ち込む間もなくコンペの開票を始めるが、アレ？何故か票数が異様に少ない!!皆、仮装に夢中で投票を忘れたのかな!?開票結果、力作多数応募のY氏とF氏に票の9割が集中。仮装の時もそうだったが、一人一票の投票形式がマズカッタのかナァ？そう言えば、川村・槙・田沼の男性お3人は時間の都合で中途退席されてしまった。不手際の犠牲にしてしまったようで心苦しい。田沼氏などはGOING HUNTING 姿で仕事に行かれたのだし・・・。

★失敗続きの司会・進行役も、後半はバトンタッチした小林夫妻の活躍で流れるように進む。特に御自分の仮装はおろか、旦那さまにはCAMPUS HERO お嬢ちゃんにはME & MY DOLLの仮装を作ってしまった幸子さんの奮闘ぶりには頭が下がる。急に暇になった私は思わずクイズに参加してチャッカリ賞品を貰ってしまう。どうも周りの人は遠慮して手を挙げなかったみたい・・・。一人で手を挙げたのはマズカッタかな!?でも問題を知っている訳じゃないんだからと自分自身にまた言い訳。

★閉会の辞を済ませてからがまた戦争!!何と言っても15分以内に全ての飾りを片付け、皿を洗い、セッティングを元に戻さなければならないんだから・・・。結局また私が忙しいと言って騒ぎ回っている内に、他の皆が片付けをしてくれた。それでも多少、疲れが出たので近所の喫茶店でひと休みする。アッ、忘れた!!会報のリポート用の感想を書いて貰わなかった。仕方がないので、同じ喫茶店で休んでいた人達に紙とペンを回す。

【 コンペティション入賞者紹介&コメント(敬称略)】

●柳本慎一：人形・小物コンペで優勝をさらい、"マッカーサーの通訳"役の仮装で入賞、クイズの商品まで貰ってしまった職務に忠実な実行委員長。「皆さん完璧な仮装をされていて驚きました。日本でコンベンションを開く日も近いと感じています。」とコンベンションの日本誘致に意欲を燃やしています。

●藤田章人：九州から記念缶バッジの写真用の素敵な手作り衣裳を送って下さり、人形・小物のコンペでも堂々準優勝を獲得。「沢山の人に見て貰う機会が出来、賞品までいただいちゃって『幸せすぎてこわいの』って感じです。次回は更にグレードアップして、ブルネットのフィリップヘアのツイストに山本リンダの格好させたり、人形自体も仮装をさせようってわけです。ふっふっふっ、また俺のドレスメーキング魂が燃えてきたぜ!!」





↑ オリジナルTシャツ、缶バッジ&チケット
← 仮装参加者全員での記念撮影

【参加者からのコメント(順不同・敬称略)】

●石月誠人：集めている物は違っても、何となく連帯感を感じて、楽しい会合だったと思います。別にバービー・コレクターではないけれど、コレクションする心は身に染みています。(注：石月さんは非会員仮装参加者です)
●上原文子：今日はとても楽しい一日でした。クイズありビンゴありで盛り沢山。スタッフの皆様ご苦労さま。
●大木　桂：もう次は何の服にしようかと思っているくらい。
●小原美之：メンバーの集いに初めて参加できて、超感激！でした。皆さんの衣裳へのリキの入り方に、来年への闘争心もほのかにメラメラと･･･。　(注：小原さんは今回一番遠い仙台からの参加者です)
●中村双葉：柳本委員長のプリンスが見られなかったのは残念。でも皆さんの素晴らしい仮装が見られて大感激！
●水原美代子：参加できて大変嬉しかったです。想像以上に楽しいパーティーだったので、毎年開いて欲しい。
●渡辺純子：とても密度の濃いイベントで120%の満足度。来年もぜひ･･･。
●アミダ翁：今回は完全に客層を間違えてハズしてしまった!!次回はバッチリ仮装でキメて、ウケを狙うぞ!?
(注：アミダ翁氏は今回の最高齢者なんと62歳!!ちなみに最年少者はスーパーマン姿の面来忍ちゃん２歳です!!)

SPECIAL THANKS TO :

〔参加者〕相原ひろみ、石月誠人、上原文子、浦田雅子、大木桂、小原美之、小原正泰、川村哲史、金川きよみ、喜屋武なおみ、高塚忠夫、東海こずえ、中村双葉、千田佳子、田沼敏昭、槇太郎、水原美代子
柳本慎一、和田和美、渡辺純子、渡辺美菜、小林武・幸子・渚、成家鉄夫・李弥子、高下明子・早苗、宮崎恵子・貴子・弘子、村木妙子・若苗・美穂、面来数磨・嘉美・忍、平垣茂穂・恭子・真穂
〔賞品を寄贈してくださった方々〕上嶋ルイザ、川村哲史、木村恵子、小林幸子、坂口久美子、佐藤志子、鎌田恵子、坪田史子 高橋義正、千田佳子、長嶺恵子、中村双葉、成家李弥子、藤田章人、三宅ゆみ、柳本慎一、渡辺純子、バンダイ㈱
〔シャンペン提供〕水原美代子　／　〔シードル・ワイン提供〕(株)ニッカウイスキー宣伝部
〔クイズ問題作成〕高橋義正　／　〔コンベンションドール・缶バッジ用衣装製作〕藤田章人
〔実行委員会〕池ます子、大木桂、木村恵子、小林郁代、小林幸子、田沼敏昭、成家李弥子、西川裕美、村木妙子、面来嘉美、矢田克己、渡辺美菜、平垣真穂

＊そしてこの企画に意見を寄せて下さった全ての皆様、ありがとう!!

順不同・重複有・敬称略

【第１回バービー仮装パーティー会計報告】

《収入の部》		《支出の部》	
会　費(1)	255,500	会場賃貸料	160,680
寄付金(2)	36,258	飲食費	53,507
		Tシャツ製作費	14,750
		缶バッジ製作費	15,290
		通信・輸送費(3)	5,328
		文具・装飾費(4)	9,364
		諸雑費	6,507
		来年度繰越分	26,332
計	291,758	計	291,758

(1) 大人34名、子供５名。(３才未満無料)
(2) 寄付金をよせてくださった方々：尾崎信子、小林幸子、喜屋武なおみ、千田佳子、成家李弥子、和田和美（50音順、敬称略）
(3) 賞品輸送費。
(4) コピー代等を含む。

《会計係より》一見、黒字の様に見えますが、Tシャツ製作用に購入したプリント・ゴッコの代金等をクラブ・ミィーティグ費より借り入れて居りますので、これでもぎりぎりの予算でした。

パリ 1990. 12. Paris December '90

渡辺純子 by Sumiko Watanabe

湾岸戦争が始まって既に１カ月以上が過ぎ、厳冬のパリでは、テロを恐れて人々は必要時以外の外出を極力控えていると聞きます。ニューヨークに次ぐ国際都市・パリにはアラブ系の住民も多く、今回の戦争は私たち日本人が考える以上の不安と混乱を持たらしているようです。

そんな事態になろうとは夢にも思わず、私は昨年１２月にパリを訪問しました。暖冬の日本とはうって変わって、到着した日から寒波に見舞われ、ドーバー海峡を隔てたロンドンでは、ホームレスの人々が大勢凍死したと伝えられました。

●トイ・マニアのショー

パリでは「トイ・マニアのショー」と呼ばれる人形や玩具の展示即売会が、毎年5 月と12月の年２回開催されます。これは、横浜のトイ・ショーを大規模にした様なもので、フランス最大の人形と玩具のショーと言えます。フランスはもとより、欧米各国からディーラーが参加し、アンティークから最近のものまであらゆるジャンルに渡る人形・玩具・関連書籍や資料などが各ディーラーのブースに並べられます。私は、このトイ・マニアのショーに合せてパリ行きを計画したのですが、どうしてもスケジュールの調整が付かず、残念ながら今回は様子を見ることができませんでした。けれども一般的な傾向として、伝統に自信のあるヨーロッパでは、バービーをはじめとするプラスティックやビニール製のモダン・ドールに対する評価は、日本同様決して高いものではありませんが、それでもここ最近は、'50 年代'60 年代の人形が注目され、今まで殆ど知られてなかった素敵なフランスのファッションドールなども出て来ている様です。

●ミドヴァニィ・ブティックを訪ねて

パリに着いた翌日からすぐ仕事です。早速、ビジネス・ミーティングの為、ビリーボーイのミドヴァニィ・ブティツクを訪ねました。濃いローズピンクで統一されたエキゾティックな造りのミドヴァニィ・ブティクには、数所数所になまめかしい紅色のキャンドルが立てられ、訪れる人のハートをとろけさせる様な甘い香りが立ち込めています。

ビリーボーイとミドヴァニィ・ドールの新作についてや、今フランスのドール・コレクターの間で密かに注目を集めているブルエット※ドールの事などを話していると、偶然にもあの伝説的なファッションモデルのベッティーナ('50年代'60 年代に一世を風びし、当時のファッション界は彼女なしには、日も夜も明けないと言われた程）が、イギリス人の某写真家夫人と連立ってやって来ました。黒いレザーのミニスカートに短めのジャケット、黒いストッキングにハイヒールという全身黒ずくめの素晴らしくセクシーないでたちのベッティーナは、今や60代になるかと思われましたが、昔のままの美しい体型を見事に保っていて、現役の女優かモデルと言っても通用する程の格好良さでした。ベッティーナは、いわゆる古典的な美人顔とはちょっと異なるファニーフェイスですが、それが彼女の親しみやすいチャーミングな人柄を良く表していて、ビリーボーイに紹介されるや、私たちは初対面にしてはかなり打解けることができました。憧れのベッティーナに会え、いっしょに写真も撮ったりできて、今回のパリ訪問は何て幸先が良いのだろう、とその後に待受けていた恐ろしいハプニングも知らず、幸福感にどっぷりと浸った一日でした。

※1905年から'60 年までフランスで売られた身長27～29cmのビスクヘッドの人形。典型的なフランスの少女ファッションと少女文化を反映した超アイドル人形。このブルエット・ドールのコレクターズ・クラブをビリーボーイが組織していて、興味深い会報（英・仏二カ国語）を発行している。ご興味有る方は、本部・渡辺までお問合わせ下さい。

●ホテルでのハプニング

その晩遅くホテルに帰って間もなくのことです。ホテル中が停電になったのです。そればかりか窓の外を見ると、街中が真暗、つまりこの界隈一帯が停電したのでした。電灯、暖房、そして電話など全てがストップです。すぐに直れば良いが、フランスの事だから．．．と不安を感じながらじっとしていると、ホテルマンが蠟燭を片手に客室を巡回し、「何時直るか自分にはわからないが、そんなに長引くとは思いたくない。あまり心配しないように。」と返って不安をつのらせるようなことを言い、おまけに予備の懐中電灯はない、また蠟燭は火災の危険があるので貸せないと言い張り、要するに夜が明けるまで闇と寒さに耐えながら待てということでした。幸い、熱いお湯だけは出るので、シャワーもバスも使おうと思えば使えたのですが、暖房の切れた寒い室内で湯冷めの事を考えると、とても髪を洗おうなんて気にはなれませんでした。仕方がないので、目からコンタクトレンズを取出し、顔だけでも洗って寝ようと思いました。ところで皆さん、暗闇の中で目からコンタクトレンズを出したことがお有りでしょうか？これは想像以上にずっと困難なことでした。室内の真暗闇よりはいくらかましな窓の外の自然な闇の明るさ(?) を頼りに、窓際に小さな鏡を持って行き、いつもの様に目の端を引張ってレンズを飛び出させようとするのですが、どうもうまく行きません。まるでコンタクトレンズまでが、寒さを嫌って私の目から出たくないと言っているかの様に思えました。かと言って暗闇の中を手探りで階段を降り、蠟燭のあるフロントまで行く勇気も





写真右：'60 年代後期のミニドレスを着たミリー・ドール2体と妹のベビー。右端はミリーのオリジナル・ボックス
写真上：'40 年代初期のオリジナルドレスを着たブルエット（左）
'50 年代初期のオリジナルドレスを着たブルエット（右）

なく、たとえ何時間かかっても自分でレンズを取出すしかないと腹を据え、急の為日本から持って来た使い捨てのミニカイロをポケットに入れ、毛布を体に巻付けて窓際の椅子に陣取り、レンズと取組みました。1時間程の格闘の末、レンズは根負けしたのでしょうか、ついに私の目から飛び出てくれました。でもこんな体験は二度としたくありません。

結局この停電騒ぎは、私の予想した通り、週末にかかった為すぐには直らず約3日間も続き、ほとんどの客は別のホテルへ移り、私も只同然にディスカウントされたホテル代を払って近くのホテルへ移動しました。

●シャルトルのドール・オークション

ホテルで停電騒ぎがあった最中の週末に、知り合いのフランス人ドール・エキスパートとパリ郊外シャルトルで開かれたアンティーク・ドールとオートマタのオークションを見に行きました。土日に行われる本番のオークションのプレビュー（内見会）が金曜の夜に開かれ、それに参加したのですが、落札したい程の魅力的な出ものはほとんどなく、カタログ片手に予想落札価格をチェックするだけで充分でした。とは言え、大好きなシャルトル大聖堂の側へ行け、何やら秘密っぽい中世そのままの会場の雰囲気はとても刺激的でした。

パリへの帰り道には、あるフランス人コレクターのお宅で、前号でビリーボーイが紹介してくれた'60 年代フランスのファッションドール・ミリーと妹のベビーのコレクションを目にすることができ、幸運にもミリーを一体わけてもらうことに成功しました。ミリーは、当時バービーのコピー人形が多いなかで、細い眉に小さくて細い目、アルカイックな微笑みを浮べた口元など極めて個性的な容貌をしていますが、フランス人から見ると、ミリーは典型的なフランス女性の顔だということです。

●そしてバービー．．．．．

パリでは、アメリカ市場で売られている代表的なバービーが、ヨーロッパ仕様の箱（４カ国語の説明付）に入れられ、数カ月遅れで店頭に並んでいますが、概して値段は想像以上に高く、USマーケットの約2倍。これは、フランス政府が国の産業を保護する為、人形・玩具・衣類・etc etc を一般輸入品の禁制品としていて、それらを合法的に輸入するには、特別のライセンスが必要であり、さらに高額の関税がかけられるからなのではないか考えられます。また、ちなみに国際便を扱う日本の宅急便会社から人形や玩具は、たとえプレゼントであってもフランスへ送ることはできません。

ヨーロッパ・バービー界のこの冬一番の話題商品は、"Happy Holiday Barbie"で、USマーケットでは、濃いピンクのガウンを着ていたのに対し、こちらは雪の様な純白のガウンをつけ、472 フラン（約12800 円）で発売されていました。

今回のパリ訪問は、殆ど毎日雪やみぞれが降り、街は灰色一色でとても寒かったうえ、ホテルでの停電騒ぎでは大変な目に合いましたが、それらを帳消しにする楽しい出来事も沢山あり、全てが今では懐かしい思い出となっています。今度パリへ行かれるのは何時のことになるでしょうか？湾岸戦争が一刻も早く終わることを祈って止みません。

NEWS 雑誌「私の部屋」（婦人生活社　隔月刊）では毎号、内藤ルネさんがお人形についての素敵なお話を書かれていますが、3 月22日発売の春号では、ミドヴァニィ・ドールが紹介されます。どうぞお見逃しなく！！ NEWS

ハート♥ボイルド・カフェ ９

平成妍 Ken Hiranari

Ken & Boy's Action Figure Dolls



写真Ａ…ケンのバリエーション
左から…＃１ケン、ベンダブルレッグ・ケン、ライブアクション・ケン、ナウルック・ケン。

Happy Birthday Ken!!

子供時代に誰もが経験する事に、「大きくなったら何になるの？」という質問があるけれど、自分自身の過去を反芻してみると子供時代はもちろん、現在でも「本当は何になりたかったのだろう？」といまだに一瞬考えあぐねてしまう。「パイロット」とか「スポーツ選手」と答えると、それを聞いた大人は安心した表情を見せてくれるけれど、これがもし「専業主夫」とか「アイドルタレントのマネージャー」なんて返答をしたら、大人はきっと「変な子…」と途方にくれてしまうのだろう。子供たちにとっての将来の姿は、子供自身の尺度でも本当に遠い未来の彼方の出来事で、今日という身近な時間だけで生きている子供たちに、未来というのは「明日、学校でやるドッヂボール」ぐらいの感覚でしかなかった（と思う？）。

子供時代から（成人した今でも）、本やテレビドラマや映画を見たりすると、すっかり夢中になってしまい、南海の無人島に漂流したり、荒馬に乗って二丁拳銃を打ったりと、頭の中ではすっかり想像の世界の住人になっている。これを変身願望というのなら、男児用人形はこの変身願望で出来ていて、何年か前に一大ブームだった超合金の変身サイボーグ人形は変身願望の最たるものだ。

遠い昔の男児の子供部屋を想像してみると、その部屋には鉄道模型やブリキの車、鉛の兵隊たち…それと部屋の片隅にころがっているテディ・ベアのぬいぐるみ…人形というのはあくまでも女児玩具だった頃の時代、人形もどきとして男児に許されたのは熊のテディ・ベアぐらいだった。（欧米ではテディ・ベアを、おしめの取れる年頃の男の子が淋しがらないようにとベッドの友人にした）女の子が人形と一緒に眠ってもおかしくないけれど、男の子が女性型人形を抱いている図は、やはり母親たちには抵抗があったのだろう。動物の形をしていて布の肌ざわりのテディ・ベアは、その為にも流行して広く家庭に普及したいきさつがある。Ａ．Ａ．ミルンの「熊のプーさん」はその姿を端的に表している。

３０年前に登場したマテルのケン・ドールはバービーのパートナーというポジションで作られた人形で、メンズ・ファッションのワードローブはおしゃれなバービーのドレス類に引けをとらないほどの衣装持ちだったが、そのスタイルは当時全盛のアイビー・ファッションと呼ばれたアメリカン・カジュアルに統一されていた。（６０年代の雑誌はアメリカのＧ・Ｑやエクスワイヤー誌で、日本の若者たちのバイブルといえばメンズクラブだった）。男性型の着せ替え人形は、全体に二つのタイプに分ける事ができ、ケン・タイプの、パートナーや家族の一員としての人形（MATTEL社のKEN,ALLAN,RICKY 、IDEAL 社のタミーの父親 DADや兄弟のTED 、REMCO 社のリトル・チャップ・ファミリーの父親 Dr.JHONなど）と、HASBRO社のＧＩジョーのように戦闘服やスポーツのユニフォームを着せ替えるタイプ（ROSCO-STEELE社のジョニー・ヒーローJONY Hero 、GILBERT 社のジェームス・ボンドやアンクル・シリーズなどに代表されます。前者は、やはり主役がバービーやタミーという女児向け人形なので、彼女たちのライフスタイルに脇役として合わせてあり、バービーを例にとると、バービーが豪華なイヴニングドレスを着るのはハイスクールのプロムやダンスパーティーの時だし、プリンセスの衣装になるのも劇場の舞台というシチュエーションになっている。あくまで可能性のあるバービー自身のライフスタイルの中で変身していて、日本のリカやジェニーのように突然お姫様のドレスもチョッと着てみました…という狂ったようなワードローブではないのです。だから必然的にケンの服も、きちんとしたタキシードがありシンデレラやアラビアンナイトの王子の衣装がコーディネートされている。ケンの服の中で秀逸なのは、スーツ・スタイルとスポーツ・ウェアだろうと思う。特にスーツの上着やコートの縫製は現在では量産する事がむずかしいテクニックで、それはまた６０年代以前の人形全体にも言えることであり、ＧＩジョーの戦闘服や各国の軍服にも、パターンの良さとこまやかな縫製の技術が生きている。人形のドレスを手作りしている会員の人たちは多分、アバンギャルドなドレスやイヴニングより、きちんとしたオーソドックスなスーツの方が、パターンを作るのも縫うのも、どんなに難しいかを良くご存じでしょう。後者のＧＩジョー・タイプの人形は、服を着せ替えて変身させるスタイルが、７０年代になる衣服よりもボディのパーツ交換に変化し、手足や腕が交換可能な武器になるロボットやサイボーグ・タイプの人形になって

行きました。最近ではもうヒーローは、ほとんど機械と一体化してしまいメタル色と未来的デザインのフォルムをしていて、車やロケットに近いデザインのものが目立ちます。８０年代から、バンダイが出し続けている変身ロボットタイプの人形が、男児用人形の流行のスタイルをすっかり変えてしまったのも記憶に新しい出来事です。



写真B



写真C

写真Ｂ：左から■1980年代のアクション・マン（ＧＩジョータイプのボディー、フロックドヘアーの後頭部のレバーを動かすと眼球が左右に動く仕組みになっている）■1980年代のレプリカタイプ（チープな作りである）■1960年代のＧＩジョー２体、軍服とつなぎの整備服を着用している。
写真Ｃ：■左…フランスの人気漫画タンタンTAN-TAN 人形。物語に合わせてカンフースタイルや着替えのワードローブがある。マンガの顔に似合わずボディーがみょうにマッチョなのが不思議な人形。1980年代。■右…バックス・バニーBUGS BUNNYの着せ替えセット。バスケット、野球、テニスなどのスポーツウェアーを着せ替える事ができる。ミッキーマウスは定番の服（赤の短パンとドタ靴）があるため、着せ替えセットなんてないけれど、バックス・バニーはウサギのままなので、こんなセットが作られたりする。1980年代。



写真D



写真E



写真F

写真Ｄ：■1960年代のジョニー・ヒーロー。アメリカの二大スポーツであるフットボールと野球のユニフォームを着せ替えられる。顔はクルーカットのケンをごつくした感じ。
写真Ｅ：■左…パルサーPULSAR,1970 年代のボディーの前面は透明プラスチックで、内臓や血液の循環器能が見える仕組みになっている。背中のスイッチを押すとチューブの中を血液らしきものが流れる。顔も前後に割れて中は透明な容器のような状態になっている。■右…ラングラージーンズのキャラクター人形。ベルトのバックルにWranglerのロゴがついている。1980年代。
写真Ｆ：■左２体…タミーの兄弟のテッドと父親ダッド。二人とも共通の服が着られるようになっている。1963年製。■右…リトルチャップ・ファミリーのドクター・ジョン。レギュラーは白衣を着ている。白髪まじりのヘアーで中年の父親像を人形化している。1963年製。

No. 12 村木妙子 Taeko Muraki



いつの間にか夢中になって、いつの間にいなくなったのか全く記憶にない程、私にとってのBarbieは生活のほんの一部に過ぎませんでした。

家の中での事より、外の事が得意で、年中サッカーだ、キックベースだと飛びまわっていた私が、唯一家の中で落ち着いて遊べたのがBarbieでした。毎週日曜日、日曜学校が終わると午後再びBarbieを持ち寄り集まっては、暗くなるまでAmerican Dreamにひたり…１日と１５日のお不動様の縁日では、綿菓子やリンゴ飴が衣装や小物に代り……

Barbieを通して豊かな Americaを見る事ができました。

１８才の頃、それまで漠然としていたインテリア好きが、アンティークに目覚め、小物、洋服、家具に至るまで、目を引く物、心奪われる物が何故か Barbie Taste のものばかり… 突然あのBarbieはどこへ？…とおもちゃ屋、デパートと走ったのですが…もちろんありませんでした。そこで当時出ていた雑誌にお願いしたところ、タミーちゃん等３５体、ケン１体、…そしてBarbieは２体だったのですが…それは私の持っていたブロンドのバブルカットでしたので、箱を開け目の前にした時には思わず、めまいを起こし茫然自失となってしまいました。充分に遊んでもらえた事を物語っているかの様に衣装も人形も退色していたのですが、それが当たり前と後生大事にしまい、時々出してはノスタルジーにひたっていました。

今では我が家の玄関はギャラリーに生まれ変わり、Barbieは額の中から、おすまし顔で皆を迎えています。



１．我が家の玄関の半景です。



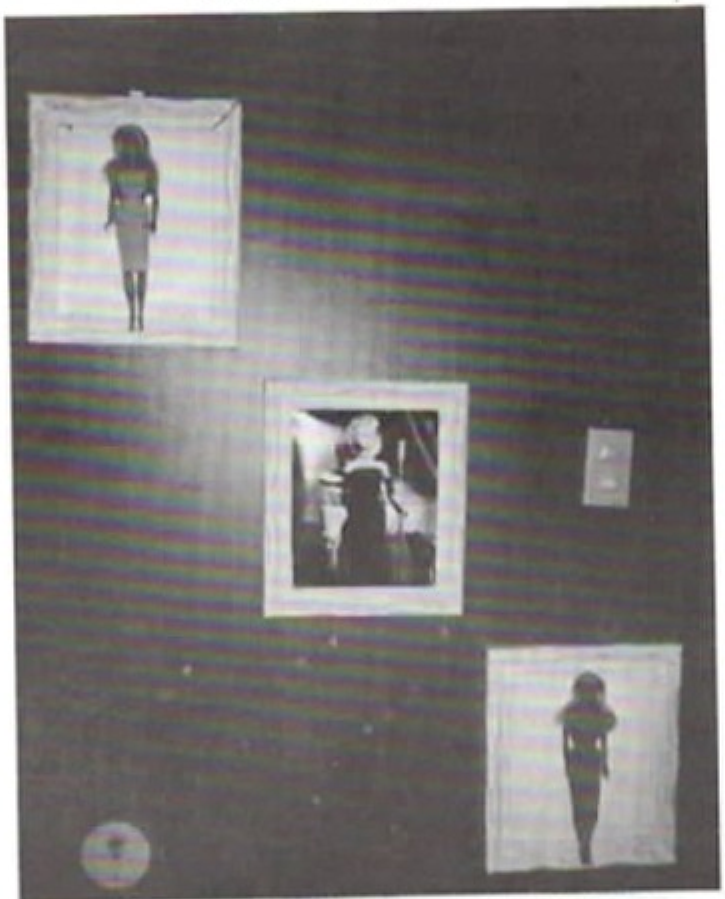
２．タミーちゃんは近所の子供達にあげてしまい６体なのですが、こうしてみるとやはり顔立ちやスタイルが少しづつ違う事がわかりました。



3．送っていただいた衣装が、かつて
持っていたものばかりでしたので
懐かしさで一杯になりました．



4．以前ミニチュア家具もコレクションしていたので
部屋別にコーディネイトできたのですが、地震で
壊され今では数点になってしまいました．
（時々こうして模様替えします）



5．子供達に買ってあげたはずのバービーが何故か額の
中に！（ジェニーちゃんがいいと買い直されました）
真ん中の写真はカレンダーの切り抜きです．



6．ポーセレンの横にケンが立つとアンバランスに
なるので、座ってのエスコートです．

クラブに入会しまして、会報、ミーティングを通し、始めてBarbieが多種あった事、衣装にナンバーや名前がついていた事、NEW-Barbieの魅力等、たくさんの事を知ることができました．…が…改めて…“そうか、ここはコレクターズクラブであって、ファンクラブではないのだ”と．　ほしいと思った時、すぐに出会ってしまったバブルカットでしたので、他のBarbieを求める事もなく、満足し切っていたのです．もちろん“好き”の思いがあればＯＫとの事ですので…．益々、拍車がかかり、深みにはまりそうです．

そしてやはり、これもBarbieの影響でしょうか．日常使いの食器や古着はもちろんの事、４年前からは、どんどん壊されていく明治から昭和初期にかけての近代建築をカメラに収めては、写真をコレクションしています．

望んで買ってもらった訳ではなかったBarbieでしたが、今も昔も夢中になり、

とりこになる幸せを教えてくれたＢａｒｂｉｅに、カ♥ン♥パ♥イ

MADE IN U.S.A.…現代のアレクサンダー・ドールたち

中村双葉　*Futaba Nakamura*

昨年の１０月３日、米国の高級人形メーカー「アレクサンダー社」の創設者、マダム・アレクサンダーMadame Beatrice Alexander Barham が、フロリダ州の自宅で９５才の偉大な生涯を閉じました。　マダム・アレクサンダーは１９８５年、ニューヨーク・シティで生まれました。当時の子供たちが遊んでいた人形は、おもにヨーロッパのビスクドールで、第一次世界大戦（1914-18)によってヨーロッパから人形たちの輸送が事実上途絶えてしまった時期に、彼女は人形を創造する自分自身の才能に目覚めたといいます。そして１９２３年に会社を設立、以来１９８８年に会社を売却するまでアレクサンダー社のヘッドを務め、会社が新しい経営傘下に移ってからも亡くなる直前までプロモーションの現役として活躍していました。

現代のアレクサンダー社の人形を初めて手にした人は、その髪やドレスに昔ながらの手の込んだ技法が残っているのに、きっと感動するのではないでしょうか。マダム・アレクサンダーの父親は、アメリカで最初の人形病院を経営していました。壊れた人形を抱え泣きながら病院へ訪れる子供たちの姿は、成長期の彼女の心に生涯忘れられない感銘を与え、「人形は子供たちにとって、喜びと悲しみと秘密を分かち合う友だちであり、美を慈しむ心を育むものだ」という彼女の信念になりました。　アメリカの人形界が、コンポジションの時代からハードプラスチックの時代を経て、ビニール製人形の時代へと移行した６５年間ものあいだ、創設者自ら監督・指揮をして作られてきたアレクサンダー社の人形たちは、マダム・アレクサンダーのポリシーと彼女が確立した技法を現代に伝えています。

ニューヨークに本社を置くアレクサンダー社と、カリフォルニアのマテル社は、どちらも現代アメリカを代表する人形をつくりながら、面白いほど対称的です。第２次世界大戦後に設立された、マテル社の願いは「ひとりでも多くの子供にバービーを」でした。そして最初からコストの安い海外に生産工場を求め、圧倒的な量産体制で製品の価格を引き下げ、いまや西側主要各国に販売網を持つ玩具の総合メーカーへと発展しました。一方、アレクサンダー社は人形の専門メーカーとしての道を貫き、すべてにアメリカ製の最良の素材を用い、入念な手作業を要する生産方法を守っています。手作業で嵌め込まれるスリープ・アイズ、それを縁取る手描きのまつ毛、専用の美容工房で一体一体個別にカールして精巧に整えられる髪、最良のデザイナーズサロンで丹念に仕上られる衣装…　人形の生産には熟練した職人芸が求められ、こうした技術者たちを育んできたことがアレクサンダー社の大きな誇りとなっています。当然値段もバービーと比べて高価ですが、決して法外ではありません。バービーがカリフォルニアの太陽みたいな、明るく陽気で親しみやすいアメリカンガールなら、アレクサンダー社の人形たちは、伝統を重んじる東海岸の、ちょっと気位の高い令嬢といったところでしょうか。

PORTRETTES 10"シリーズ

バベットBABETTE #1117(1989)



デイナー・アット・エイト#1127 →
DENNER at EIGHT(1989-90)



ラプンツェル#1131 →
RAPUNZEL(1989-90)



現代においては、異なった方向へ歩んでいるバービーとアレクサンダードールですが、あえて接点を求めるとすれば、１９５０年代に登場したアレクサンダー社のシシィ(1955)、シゼット(1957)、エリーズ(1957)でしょう。「大きくなったら、どんな服が着られるかしら…」という小さな少女の夢に応えるため、マダム・アレクサンダーが考案した、これらの人形たちは、素敵なフィフティーズファッションが着こなせる大人の体型と、ハイヒールが履ける足を持っていました（エリーズは足首にもジョイントがあり、ローヒールも履けた）。大人の最新ファッションを着こなし、洒落た帽子やアクセサリー、ストッキングや大人っぽい下着類まで揃えた、アレクサンダー社のハイヒール人形たちはもちろん大成功をおさめ、他の人形メーカーも競ってハイヒール人形を作りはじめました。こんな時代背景のもとでバービー(1959)は生まれ、ハイヒール人形のエッセンスを凝縮させることに成功したのだと思います。（アレクサンダー社が1964年に発売したブレンダ・スターは、１２インチで全身のバランスが比較的バービーに近い人形ですが、同社の1950年代の人形と同様スリープ・アイズでヒザの上部のジョイントによってヒザを曲げられる仕組みになっていました。このヒザを曲げる仕組みは現代の２１インチのハイヒール人形に残されています）



FAO SCHWARZ EXCLUSIVE CISSY　昨年ＦＡＯの独占商品で再登場したシシィ。ハリウッドの衣装デザイナーの赤いドレスを着ています。



SCARLETT JUBILEE II (1989)のスカーレットたち。左はPORTRAIT DOLLS 21"、左はPORTRETTES 10"タイプのスカーレット。



フラッパー
FLAPPER#1118
(1989)
＊1990年のは
ブルネットで
白いドレス

〔現代のアレクサンダードールたち〕

★PORTRETTES 10"シリーズ……シゼットのモールドを使った体長約２３センチのハイヒール人形で硬質プラスチック製。ラプンツェル#1131 やシンデレラ#1135 等の物語の衣装から、ギブソンガール#1124 やフラッパー#1118 等の回顧調の衣装、バベット#1117 やディナー・アット・エイト#1127 等現代の衣装まで、ハイクウォリティーな衣装に身を包み、衣装にふさわしい精巧な髪型。目移りするほど愛らしいシリーズ。

★PORTRAIT DOLLS 21"シリーズ……素晴らしく手の込んだ豪華な衣装とアクセサリーを着けた体長約５２センチのシシィ・サイズの美しいハイヒール人形。ビニール製。１９９０年のPORTRAIT DOLLSは、新作ミッドナイト#2256と一昨年から引き続いてナターシャ#2255 。

★STORYLAND DOLLS 8",INTERNATIONAL DOLLS 8",AMERICANA DOLLS 8"、シリーズ…１９５５年から続いているシリーズで、体長約１９．５センチの子供体型。硬質プラスチック製。顔のモールドには、ちょっぴりおすまし顔のALEXA-NDER-KINS(1953) フェイスと、可愛いいたずらっ子顔のMAGGIE MIXUP(1960)フェイスの二通りある。ストーリーランドは、おなじみの物語の登場人物たちで、「若草物語」の４人姉妹(#408,#407,#406,#405) やローリー#410、アリス#494、赤ずきんちゃん#485、トム・ソーヤー#491とハック#490等々。インターナショナルは世界各国の民族衣装の人形たち。アメリカーナは、ナース#308、チアリーダー#304、アイススケーター#303等々。どれも髪の結い方や色合い、瞳の色に工夫がこらしてあり、ついつい集めたくなる可愛らしさ。

★CLASSIC DOLLS 14",FIRST LADIES 14"シリーズ…１４インチのビニール製。クラシックドールズは、昔の女王や王女、白雪姫#1556 、アリス#1552 、赤毛のアン#1530 、「大草原の小さな家」のローラ#1531 、「若草物語」の作者オルコット#1529 等々。ファーストレディーズは、歴代大統領の夫人たち。

★SCARETT SERIES…「風と共に去りぬ」は、アレクサンダー社お気に入りのシリーズで、毎年様々なサイズとデザインの衣装を着たのスカーレットと、登場人物（レット、メラニー、マミイ等々）を発表している。スカーレットは皆美しい緑の瞳とブルネット。１９９０年のPORTRAIT DOLLS 21"のスカーレットはウェディングドレス#2258 、PORTRETTES 10"や８インチと、１４インチのスカーレットはレットと初めて会った時の園遊会のスタイル。

★ELISE BALLERINA 17" …昔のエリーズとはモールドが異なるが、毎年美しいバレリーナのコスチュームを着て登場。

★その他、ベビーや幼児人形、ROMANCE COLLECTION 12"、１９８９年から始めた限定版のPORCELAIN シリーズ等々。

CLASSIC DOLLS 14" のSLEEPING BEAUTY#1595(1988)とSTORYLAND DOLLS 8" のトム・ソーヤー(右 MAGGIE MIXUP FACE) TOM SAWYER#491(1989-90)





女の子なら一度ははまった？赤毛のアン。CLASSIC DOLLS 14" ANNE OF GREEN GABLES #1530(1989-90)



STORYLAND DOLLS 8"
若草物語の４人姉妹
(ALEXANDER-KINS FACE)
どれが誰だかわかるかな？

── 第4期（１９９０年3月より１９９１年2月２３日現在まで）編集室使用経費支出報告 ──

１９９０年3月より１２月まで（第１３～１５号 …レシート／領収書は本部へ提出、精算済み）

フィルム／フィルムプリント代……………………………………………………￥６，９６３
切手／送料（第１５号会報用国内・海外発送料を含む）……………………￥５７，１０４
第１４号会報印刷代（値上げによる不足分￥１４０００は未払い）………￥４２，０００
文房具／インクリボン代……………………………………………………………￥６，３９６
コピー代(第13号~15号会報作成用¥4,493,第15号サマリー作成用¥1,420) ……………………￥５，９１３
資料（よいこ２冊…第１３号と第１５号会報に使用）……………………………￥８４０

（計 ￥１１９，２１６）

注：①第１３号会報印刷代、第１３号～第１４号国内・海外発送料及びサマリー作成費、会報発送用封筒（宛名ラベル）は本部より支出。②ワープロ用紙、レイアウト用紙、レイアウト用のりは本部よりの支給。

１９９１年1月より2月２３日現在まで（第１６号作成中… ２月２３日現在 未精算）

２月１３日・感熱紙……………………………………………………………￥８４９
２月１５日・インクリボン／フロッピー（会員名簿作成用）………………￥２，５２５
２月１９日・フィルムプリント代…………………………………………………￥９７８
２月２０日・コピー代…………………………………………………………￥４７３

注：①レイアウト用紙、レイアウト用のり、ホワイトスクリーンは本部よりの支給。②現在１５号会報を作成中の為まだコピー代、送料、会報印刷代などの支出予定が残っています。③海外の新製品情報やニュースなどは、個人的な文通やトレードによって収集したものであり、クラブの経費は使っていません。

第5期　B．C．C．J．活動プラン　（企画・編集室）

●この３月でバービー・コレクターズ・クラブ・ＪＡＰＡＮは、発足してから丸４年になりました。当初、渡辺さんと私、それにレプリカバービーの販売店でバンダイ㈱とのパイプ役を引き受けてくれたＰＢ・ＳＴＯＲＥが、受付窓口となってスタートしまが、１年足らずの内にＰＢ・ＳＴＯＲＥが突然の閉店。第２期からは渡辺さんが「本部」としてクラブの受付窓口と運営・経理を、私は「編集室」として会報作成に携わって参りました。渡辺さんと街角の店でコピーし喫茶店でホッチキス止めして作っていた第１号から６号までの会報は、あまりに拙くて未だに読みかえす勇気さえありませんが、この時期からクラブとつきあってくださっているメンバーの方々の寛大な優しさには、あらためて感激するとともに頭の下がる思いです。第７号からはメンバーの恩蔵良治さん（ライトハウス社長）のご厚意により、念願だった会報の印刷が低コストで出来るようになりました。●号を重ねるごとに深刻になったのはページ不足でした。「あれも載せたい、これも載せなきゃ」と背表紙まで記事で埋め、ヨコの字数をふやしたり字が小さくしたりの悪あがきに、年４回だけ発行する会報の限界を感じはじめました。もっと大きな問題点は、メンバー間の「売物・捜し物・情報」記事の鮮度が落ちてしまうことです。クラブ発足当初はほとんどなかった個人の「セールス」品も、ミーティングの際などに豊富に集まるようになりました。これはクラブが健全に成長している証しでもあり、ミーティングに出席出来ない人たちや、セールスリストを出すほどではなくても売りたい品がある人たちのためにも、せめて「売物・捜し物・情報」を中心としたミニ新聞を、１～２ケ月に１度くらいの割で出せないものかと考えはじめました。●第５期へ向けてのプランを練り始めていたら、会報の印刷代の値上げになりました。ライトハウス社長のご厚意のおかげで値上げになっても通常の印刷代と比べて割安なのですが、今年になって２度目の値上げ（会報印刷代の推移：第７号～１２号…￥３６，０００／第１３号…￥４２，０００／第１４～１５号…￥５６，０００）に、会費の値上げもやむを得ないという本部からの報告です。渡辺さんと話し合った結果、1月２０日の仮装パーティー反省会の席上を借りて、出席したメンバーの方々と良い方法を検討してみることになりました。●結論として会費の値上げはやむを得ないが、ミニ新聞発行は会費の値上げによってメンバーが減るのを防ぐ意味でも、有効だとの賛同が得られ、同人誌の編集経験のある平垣真穂さんがミニ新聞「バービー・タイムズ」作成をを引き受けてくれることになりました。同時に会員名簿の発行問題も討議され、こちらは下記の方法で私が作成することになりました。会費の値上げ額は５００円として、活動内容を増やした分は経費節減や会費の資金運用でカバーし、合わせて負担がかからない程度の軽い寄付金を募ろうということになりました。●第１期から現在までのＢＣＣＪの歩みを振り返ってみると、第２期までは新入会員募集に気をとられクラブの土台作りの方は後回しになりがちだったと反省しています。それでも第３期、４期と進むにつれて、次第にメンバーの中からＢＣＣＪの活動に直接協力してくださる方々が増え、それが何よりも嬉しく心強く、クラブをやってきて良かったと思います。残念ながら日本では人形蒐集は、まだまだマイナーなホビーですが、アメリカではバービーに限らず人形コレクターの層が厚く、そのための雑誌もいろいろ発刊されています。日本における人形コレクターの世界が、アメリカ並みの層の厚さになるには長い年月が必要ですが、４年前に発足した日本で初めての人形キチガイの同好会ー我らがＢＣＣＪが、その萌芽であり、その土台作りに重要な役割を果たして行く必要があります。メンバーの皆さん、日本の人形コレクター界の将来の為にも、力を合わせてＢＣＣＪを育てて行きましょう！（中村双葉）

★会員名簿を作ります…会員名簿（住所・氏名・会員番号を記載）に、住所・氏名が掲載されるのを望まない方だけ５月２０日迄に中村までご連絡ください。ご連絡のなかった方は承諾と見なし、名簿を作成します。
会員名簿は掲載に応じてくださった会員へのみ、第５期の１７号会報（６月中旬発送予定）に同封します。
（第５期に中途入会する新メンバーについては、なにか良い方法を検討中です）

★ミニ新聞「バービー・タイムズ」を発行します…第二編集部が年４回、会報発行の合間に発行します。第１号は４～５月頃の予定ですが、今号にＰＲ版を同封しました。次回からはクラブへ寄せられた「売物・捜し物・情報」を締め切り期限に応じて、会報とバービー・タイムスが交互に掲載しフレッシュな情報をお届けします。

★経費の節減に努めます…本部・編集部（編集室改め）・第二編集部（仮称）は各部ごとの必要予算を計上し、ミーティングの場を借りて、予算審議会を開きたいと思います。またクラブにご質問のある方は、返信用切手つき封筒を同封してくださると有り難いです。

★寄付大募集……５００円程度で切手でもかまいません。会報の発送には一人あたり年間７００円（一回１７５円×４）加えてバービー・タイムスの送料が一人あたり年間２４８円（一回６２円として×４）かかる予定です。
もし引き出しに眠っている切手などありましたら、寄付していただけるとおおいに助かります。

ＢＣＣＪ第５期作業協力者
本部…渡辺純子／編集部…中村双葉、高橋義正／第二編集部…平垣真穂／会報の概要の英訳…小林幸子
ミーティング・コミッティ（ミーティング実行委員会改め）…柳本慎一、平垣真穂、大木柱、木村恵子、小林郁代
小林幸子、田沼敏昭、成家李弥子、村木妙子、亩来嘉美、渡辺美葉
注：ミーティング・コミッティはミーティング参加費にて運営されています。

北海道支部…坪田史子／九州支部…藤田章人／関西支部…前坂恵（第１３号の訂正とお詫び…誤：恵→正：惠）
注：各支部は各地域でのメンバー間の交流を目的とする、地域による自主運営の組織です。
各支部と連絡をとりたい方は、返信用切手を同封するなど協力してあげて下さい。



●バービー・ベネトンBARBIE BENETTON



●マテル・フランスのバービーカレンダー
1991 BARBIE CALENDAR by Mattel FRANCE

EUROPE

●マテル・フランスでも今年の発売予定のバービーを載せたカレンダーを制作しました。但し店で配布する販売促進用で非売品。（写真参照）●話題の「バービー・ベネトン」は黄色や赤を多用したカラフルなベネトン・ファッションです。（写真参照）　情報＊Jean-Pierre ICARDO

●現在発売中の小学館よいこ４月号には、おなじみのバービー・フォトストーリーの他に、世界の民族衣装を着せたバンダイ・バービーの「おひめさまコンテスト」のページがあります。ふろくはバービー・ファッションセセット（銀色の厚紙で作るブレスレットと可愛い小箱）

☆右…あっ！デュ・エルが、女性用パンツと一緒に通販されてる！！
（某男性用週間誌の通販広告より）



REAL-LIFE BARBIE



☆左…１月にロンドンで開催されたインターナショナルトイ＆ホビー・フェアでバービー人形のそっくりさんコンテストが行われ、Haley Spencer さん（写真）が４０００名もの応募者の中から見事に栄冠を勝ち得った。彼女の本業は建築家の秘書。（Japan Times より）

LONDON — Haley Spencer, 24, of Bournemouth, England, is photographed with a Barbie Doll after she was named real-life Barbie in a contest at the International Toy and Hobby Fair here Monday. Spencer, an architect's secretary, was the star of the day at the Mattel toy stand after beating out 4,000 contestants in a series of contests. AP PHOTO

EUROPE



●右…今年の新作バービー・カプリ BARBIE CAPRI #5733 は黒地に白い水玉模様のキュロットスカート姿。ヨーロッパ（カナダ・オーストラリア）で発売されている。



●左…バービーのコリー犬「サンチャーム」Suncharm #8715は昨年ヨーロッパで発売された。



シンプソン一家。左端が主人公のバート
THE SIMPSONS TM &© 1991 Twentieth Century Fox Film Corporation



◆日本で大人気の「ちびまる子ちゃん」
集英社りぼんマスコットコミックスより

◆米国の人気アニメ「ザ・シンプソンズ」原子力発電所で働く父、母、長男バート、長女リサ、赤ん坊のマギーがリアルな日常を演じて、日本での「ちびまる子ちゃん」以上の人気だという。もちろん人形やキャラクターグッズも大人気で、日本へは４月にも上陸するという。



◆人形ショップ「函館人形家」の特製シスター人形。
¥6500,別売りスタンド¥400, セキグチ㈱製
お問い合わせ…「函館人形家」北海道函館市末広町２３番９号☎0138-27-7010（情報・写真：長嶋恵子）



バービー ♥ フレンド ♡ ルーム
Barbie Friend's Room

♥今号の国内メンバー向けの「捜し物・売り物」のお便りは、同封の「バービータイムズ」ＰＲ版に掲載しました。これからは国内向けのお便りは会報の「フレンドルーム」と「バービー・タイムズ」が交互に掲載して行きます。売り物や捜し物、近況、情報、文通希望、リポートなど、どしどしお寄せください！

♥文通トレード…日本のバービーコレクターと文通やトレードなどしたいと思います。どなたかお便りください。(Marianne Sumith 187 Sierra Drive, Gabanna, Ohio 43230 U.S.A.)

♥文通トレード…２７才の女性です。ＵＳバービーと日本のバービーのトレードをしませんか？日本人ペンパルを捜しています。男女を問わず大歓迎です (Suzy Sease 804 Pine Grove Drive, Waynesboro, Pennsylvania 17268 U.S.A.)

♥文通…ドイツでしか入手出来ないフレンドシップバービーNRFBを、日本のバービーと１対１でトレードしたいと思います。ご希望の方、お便り下さい。(Stefanie Deutsch Postfach 69, D-7701 BÜSINGEN West Germany)

♥文通トレード…私は日本文化にとても憧れている３６才の独身女性で、郵便局に勤めています。どなたか私と文通やトレードをしませんか。(Susan Beld 4111 Major Avenue, Madison, WI 53716 U.S.A.)

♥文通トレード…私はバービードールのニューコレクターです。トレードや情報交換を日本のコレクターとしたいと思います。どなたかお便りください。出来たらお誕生日と電話番号もお願いします。あなたのお誕生日には国際電話をかけて驚かそうと思っています。(Darlene A. Mahling 3254 Liberty Avenue, Alameda, CA 94501 U.S.A.)

★島村麻里さんの新作著書「"ファンシー"の研究」と「愉しいカイシャ選び」（どちらも仮題）が今春出る予定です。

★昨秋、メンバーの尾崎のぶ子さんのファンシーショップが祐天寺にオープン。文具、縫いぐるみ、お人形…近くへ出る機会があったら覗いてみましょう。「マーマレード・カンパニー」東京都目黒区祐天寺２－３－１７☎03-5704-6430

■湾岸戦争が停戦となり終結しようとしている今、ようやく会報作りも最終ページに入りました。クウェートが解放されたことを喜ぶとともに、そのために血と汗を流した方々へ大いなる敬意を捧げ、命を落とした方々とその御家族へ心からの哀悼の意を表したいと思います。（1991.3/2 編集室 中村双葉）

＊第１５号の訂正とお詫び…１５ページ上から２２行目、誤：ゲ→正：ガ

編集・中村双葉／発行・渡辺純子 Pablisher:Sumiko Watanabe Editor:Futaba Nakanura 禁：無断転載
発行日 1991.3/2 バービー・コレクターズ・クラブ・ＪＡＰＡＮ 第１６号 印刷：ライトハウス

★現在発売中の「エスクァイア」誌４月別冊号「６０Ｓ特集」の９２ページにバービーが出ています。ユーピーユー出版¥１８００